同門神奈川

第 207 号

令和８年　7月13日　印刷
令和８年　8月 7日　発行

表千家同門会神奈川県支部
〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町1-8-5
エスフォレスト横浜203
支部電話
０７０－２９０２－２３１５
メールアドレス
kanagawa_domonkai@omotesenke.jp

## 鶴岡八幡宮献茶式ご奉仕の三木町宣行宗匠

若葉きらめく鎌倉鶴岡八幡宮本殿において、三木町宣行宗匠のご奉仕による表千家献茶式が執り行われました。不審菴より渡辺潤宗匠、池嶋謙一先生のご臨席を戴き、支部より三橋良二副支部長ほか会員 74 名が参列し、厳粛なるうちに滞りなく終了いたしました。拝服席は直会殿において神奈川県支部参与会、副席は洒心亭にて坂本美智代会員、常陸席にて川島富美会員が掛釜をされ、三木町宣行宗匠ご一行も入席されました。約227名の方々が参席されました。

## 鶴岡八幡宮と冊子悠久

副支部長　三橋　良二

発足当初の鶴岡八幡宮献茶式は、五月二十日に執り行われておりました。新緑の鮮やかな中に心地よい風を感じられる鎌倉で最も良い気候の時期を選んだとうかがっております。本年の献茶式は、正にこれを強く感じさせられる好天とそよ風の中行われました。

さて、先般吉田宮司より「悠久」という冊子を紹介いただきました。この悠久なる冊子は、本文の紹介によりますと、創刊は戦後間もない昭和二十三年一月五日、当時の宮司であられた、座田司氏（さいだ・もりうじ）宮司の発案によるものだそうです。「戦前の国家管理の神道ではなく、現場での祭りをとおして神道をよく見てほしい」ということが趣旨だそうです。その後精力的に発行されていましたが、八年後に志半ばにしてやむなく休刊となりました。その後昭和五十五年四月に白井宮司の手により先人たちの思いを受け継ぐべく再刊されています。日本人の神社信仰の伝統と習慣を学問や理論として受け継ぐことの責務をその創刊の辞とされています。その後百六十五号にて再度休刊となりましたが、平成六年吉田宮司の熱意により再々刊されています。現在七号まで発行されているようであります。対話形式で書かれている箇所が中心で、二十ページ程の小冊子で注釈も多く大変読みやすくなっており、多くの方に読んでいただきたいという吉田宮司の気持ちが伝わってまいります。私には、神社神道、また神社と茶道を考える良い材料を与えていただいたと思っております。是非、お読みになることをお勧めいたします。

## ◆行事報告◆

# 鶴岡八幡宮献茶式

拝服席　直会殿

主　神奈川県支部参与会

掛物　神　即中斎筆
花入　唐銅　鐶花入写
花　芍薬
菓子　御紋菓　木地三宝ニテ

## 副席　洒心亭

主　坂本　美智代

洒心亭

主　坂本美智代

掛物　而妙斎宗旦筆二行
遠山無限　碧層々
軸先　永楽　表具好　共箱

別席ニ

花入　浅黄交趾末広　即全造　而妙斎箱
即中斎画賛　画覚　賛清凡　共箱
花　季のもの
香合　鎌倉彫四方香合　即中斎在判
唐銅朝鮮凡炉浜松紋真形釜添
與兵衛作　即中斎箱
連山霞降凡炉先屏凡　小兵衛作　共箱
棚　吉翔卓　小兵衛作　共箱
水指　瑠璃地四季草花文皆具ノ内　徳泉作　而妙斎箱
茶器　而妙斎好松喰鶴蒔絵平棗　而妙斎在判
宗旦作　而妙斎箱
茶碗　黒　筒型　覚入作　即中斎箱
赤　十代吉左衛門作
替　而妙斎好染付老松　而全造　而妙斎箱
茶杓　即中斎自作　銘五月晴　共筒同箱
建水　唐草彫モウル　浄益作　而妙斎箱
蓋置　萩手切　十代休雪作　而妙斎箱
菓子器　即中斎好アミ画薄喰篭　即中斎在判
菓子　あわ羹　青嵐　藤丸製
茶　清友の白　柳桜園詰
煙草盆　竹曲　正玄作　猶有斎在判
火入　八卦　弘入作
莨入　鎌倉彫　鎌幽作
煙管　如心斎好　筋　浄益作

洒心亭　主　坂本 美智代

常陸席　主　川島 富美

## 副席　常陸席

主　川島　富美

掛物　彩鳳舞丹霄　即中斎筆
花入　手付竹花籠　上田尚斎作
花　季のもの
香合　煙斎好写朱面亀香合
釜　糸目筒釜　大西定林作
風炉　土風炉　寄神楽写作
先　市松文様　即中斎在判
棚　長板
水指　末広水指　萩焼　而妙斎箱　新兵衛作
茶器　桐竹蒔絵　即中斎箱
茶碗　黒茶碗銘清流　即中斎箱　小川安楽作
替　紫仁守萩茶碗銘松韻
茶杓　桐唐草蒔絵松ノ木　銘風舞　即中斎箱
建水　御本三島　楽山作
蓋置　青竹
御茶　再の白　奥西緑芳園詰
猶有斎好
菓子　夏木立　大黒屋製
器　宋胡録
莨盆　桐型　鶴来一閑作
火入　香炉ろ足　三代久楽作
莨入　紙煙草入　吉兵衛作
煙管　如心斎好　十代浄益作
以上

## 本部からのお知らせ

### 「皆寿表彰」について

令和九年度の皆寿表彰の対象者は、左記の条件を満たされる方です。

一、昭和二十六年のお生まれで、同門会に継続二十年以上在籍された七十七歳の方
（平成十九年以前に入会の方）
※本部にて執り行われる「皆寿お祝いの会」にて表彰を受けることができます。
「皆寿お祝いの会」に出席できない方は、支部総会の席上にて表彰されます。

二、昭和二十五年以前のお生まれで、同門会に継続二十年以上在籍された方
（平成十九年以前に入会の方）
※支部総会の席上にて「皆寿表彰」を行います。

一、二に該当され表彰をご希望の方は、ハガキに「皆寿表彰申請希望」とし、次の項目をご記入の上、**本部事務局**まで申請用紙をご請求ください。

（記入事項）所属支部・会員番号
郵便番号・住所・氏名

・申込用紙が届きましたら、ご記入の上、**令和八年十二月末日**までに本部事務局まで申請してください。

**本部連絡先**

**表千家同門会 本部事務局「皆寿表彰」係**
〒602-0072 京都市上京区寺之内通
堀川東入百々町五三六番地
電話 **075-431-3281**

## ◆令和七年度行事報告◆

### 表千家同門会神奈川県支部 第十一回 支部茶会

令和八年三月一日、天候にも恵まれ、春の陽光やわらかな中、三溪園鶴翔閣において支部茶会を開催いたしました。

当日は三百十四名の皆様にご参席いただき、盛会のうちに執り行うことができました。

また、物故会員を偲ぶ席も設け、在りし日のお姿を偲びながら、感謝と追悼の思いを新たにする一席となりました。

#### ＜支部席＞

会記
於　鶴翔閣 客間棟
主　神奈川県支部

掛物　猶有斎筆一行　瑞気満乾坤　同箱
宗匠ご襲名記念ご染筆　支部拝領
花入　黄交趾写霊芝耳花入　即全造
香合　久田宗全手造　瓢香合 銘清蘆　覚々斎書付
釜　富士形　大西浄久作　釣釜にて
鎖　唐物金紫銅釜鎖
炉縁　溜塗
風炉先　竹結界
棚　啐啄斎好　溜丸卓　宗哲作
水指　黄阿蘭陀
茶器　宗旦形黒中棗　不及斎書付　碌々斎箱書付
茶碗　了入作　黒　銘鶴亀　了々斎書付
茶杓　啐啄斎作　銘みとり　碌々斎箱書付
建水　伝来写　浄益作
蓋置　七宝　京都稲葉製
菓子器　一閑塗六角喰籠　碌々斎書付　一閑作
菓子　銘早蕨　横浜大黒屋製
茶　風露の白　柳桜園詰
茨盆　木地行李蓋　利斎作
火入　白釉　李朝時代
茣入　存星桃形
煙管　如心斎好筋　浄益作
以上

#### ＜参与席＞

### 恩師、朋友を偲びて

忠孝以君父に仕へ禮譲以朋友に交りと云う言葉を耳にする。この教えは恩師との出逢いからであります。人は生きている。そして、ずっと生き続けるとそう信じている。だからこそ人と人との深い交りが有り、うれいやらとまどい、悲しさ淋しさそして楽しさもあるのでしょう。と師の笑った顔が忘れられない。質朴身を修めて生きてこれた喜びを体感する。慈愛の全てが、茶の湯のお教えの中に先生の恩、朋友の愛と思いに胸を熱くする。一花を奉じて久遠の慈悲の一時（ひととき）を感謝してみてはいかがでしょう。

特別参与　正井良孝

#### 楽室棟　偲び席

会記
於　鶴翔閣 楽室棟　追善席
主　神奈川県支部参与会

掛物　観世音画讃　前建長寺管長　曇華室老大師
前ニ香炉台ニ香炉　銘かのよ
掛物　鎌倉八幡宮名誉宮司白井永二筆　清風
花入　宇野克己顧問作　竹一重切
新潟旧市島邸内植物園開園記念の際花寄席の作
花　白椿
香合　支部設立三十五周年記念並びに鎌倉八幡宮献茶三十周年記念に鶴岡八幡宮神輿に鋲打ちされた釘隠し巴紋丸香合
八重柏正英支部長喜寿祝いに家元而妙斎宗匠よりいただいた遺品のふくさを敷いて

棚　惺斎好桐木地糸巻二重棚
釜　天猫　甑口あられ古鐃蓋
炉縁　紅梅摺漆
水指　藤堂伊賀　津藩藤堂家旧蔵
茶器　元伯宗旦直書利ト有り中棗　碌々斎箱書付
茶杓　八重柏正英支部長作 銘龍門 堀内宗心箱書付
茶碗　黒　長入作　東陽坊写　即中斎箱書付
替　神奈川焼　井上良斎作　鏑
井上キヨ参与の夫
建水　溜ヌリ曲
蓋置　蝶の絵　永楽即全作
菓子器　呂久呂目皿
菓子　ジョウヨウ饅頭　横浜大黒屋製
莨盆　八重柏正英支部長遺品　時代　鯨手桑
火入　桐淵宗圓参与遺品　スエーデン製
以上

## ＜青年部席＞

会記
於　鶴翔閣 茶の間棟
主　神奈川県青年部

掛物　即中斎筆一行　長生殿裏春秋富　同箱
花入　美濃伊賀　銘寿老　兼中斎箱　林英仁作
杉蛤端シキテ
金ハク桜置き上蛤香合　即中斎在判箱　利斎作
青年部十五周年記念服紗シキテ
釜　尻張　浄味作
炉縁　松唐草蒔絵　而妙斎在判箱　漆園作
惺斎好金砂子桐置き上腰風炉先屏風　清友在判
棚　即中斎好竹柱組立二重棚　同箱　正玄作
水指　真葛焼　黄交趾松唐草　即中斎在判箱
茶器　塩屋蒔絵大棗　而妙斎箱　漆園作
茶碗　覚入作赤　銘九重　即中斎箱
替　而妙斎好　花の白河　同箱　即全造
茶杓　即中斎作　銘磯辺の春　同筒箱共
建水　アサジの木拭漆　近左作
蓋置　南鐐　雲錦　竹影堂作
菓子器　鎌倉彫菊彫　三橋鎌幽作
菓子　雲居の翼　茶の子製
茶　松の白　柳桜園詰
莨盆　鎌倉彫刀目　三橋鎌幽作
火入　蓮窯　六瓢彫　山門裕作
莨入　フクロウ　シンガポール製
煙管　如心斎好筋　浄益作
以上

## 令和八年度 資格者講習会

令和八年六月二十七日(土)茅ヶ崎市民文化会館大ホールにおいて資格者講習会が行われました。不審菴より小笹晃宗匠、松原儀明先生が指導にあたられ、午前中は「初炭」「廻花」「台飾」の実技、午後は配布資料の説明がありました。

当日は台風の中、他支部からの出席者を含め、三百六十一名が受講されました。

開催の対応に関しまして、ご心配とご不便をお掛けしましたこと、深くお詫び申し上げます。今後の対応につきましては、改めて検討してまいりたく存じます。

初炭

小笹 晃 宗匠

台飾

廻花

## 令和八年度 支部総会・一般講習会

令和八年六月二十八日（日）茅ヶ崎市民文化会館大ホールにおいて、本部より小笹晃宗匠ご臨席のもと、支部総会を開催いたしました。

石田八重子事務長より、令和七年度事業報告・決算報告、令和八年度事業計画・予算報告がなされ、続いて三橋良二副支部長より、令和九年度事業計画及び予算編成の説明がなされ、各議事について承認されました。

続いて令和八年度支部功労者及び㪚寿表彰者の紹介が行われ、小笹晃宗匠、三橋良二副支部長より、それぞれに表彰並びに記念品が贈呈されました。

支部総会終了後、小笹晃宗匠より「即中斎の話」の講話がありました。午後からは一般講習会が催され、「且座」「薄茶」の実技指導が行われました。

小笹 晃 宗匠

## 〈ご紹介〉

支部功労者
支部会員　関口　一美

且座

薄茶

## 第三回 茶の湯文化にふれる体験学習

### ～和菓子作りと茶の湯体験～

令和七年十二月十三日（土）三溪園白雲邸に於いて、横浜日ノ出町打出庵大黒屋のご店主を講師にお招きし、和菓子作りとお茶席を体験していただく体験講座を開催いたしました。和菓子作り体験では、はじめに和菓子に纏わるお話と実演を、また見本に作ってきてくださった季節のお菓子十二カ月十二種をご披露くださいました。

## 萩焼茶碗を作る 萩焼茶碗で点てる

### ～作陶と点前体験～

令和八年三月八日（日）三溪園主催の作陶と茶道、二つを体験できるイベントが三溪園白雲邸にて開催され、茶道体験の協力をいたしました。

# ◆令和８年度行事予定◆

## 教授者講習会

月　日　令和８年11月26日(木)
場　所　鎌倉芸術館小ホール
講習課目　教本　「炉」
　　実技　「炭所望、濃茶、薄茶」
※不審菴より通知のある方のみ

## 建長寺　四ツ頭茶会

月　日　令和８年10月24日(土)
場　所　建長寺
茶券申込、詳細につきましては、８月に掲載されます建長寺ホームページをご覧ください。
HP https://www.kenchoji.com/

## 第９回 茶の湯文化にふれる市民茶会

月　日　令和９年２月14日(日)
場　所　三溪園白雲邸

## 第４回 茶の湯文化にふれる体験学習

～和菓子作りと茶の湯体験～
月　日　令和９年３月14日(日)
場　所　三溪園白雲邸

## 第31回 三溪園大茶会

月　日　令和８年10月31日(土)
　　11月 1 日(日)
場　所　三溪園
参加費　18,000円
(五流の席入料、点心代、三溪園入園料が含まれます)
お申込み　事前申込み制
お電話でお申込みを受け付けます。
詳細につきましては、三溪園までお問い合わせください。
連絡先 ☎045-621-0634・0635(三溪園)

6/27の資格者講習会では、台風のため、開催の可否について皆様には大変ご心配をおかけしました。
教授者講習会が変更になる場合は、表千家ホームページの新着情報にて随時お知らせいたします。
ご参加の前に、念のためご確認ください。
【表千家ホームページ】https://www.omotesenke.jp/

## 神奈川県支部役員

支部特別顧問　吉田　茂穂
支部特別参与　正井　良孝　岡田　節子　池田　房子
支部参与　田中　薫子　多田　輝典　宮本　勲　陶　澄子　丸山　賀子
任期　自 令和8年4月1日　至 令和11年3月31日
副支部長　三橋　良二
支部幹事　石田八重子　岩間光佐子　正井　誠　佐藤　時雄　初田　嘉正　斎藤菜穂子　梅崎　慎子　川瀬　和子　原田　香苗　前田　祐子　大浦三枝子　伊豆　京　富岡　洋　堀江　絹子
事務長(新任)
会計
会計(新任)
支部幹事補佐　北村　昌子　後藤　美子　榊原　幸恵　西岡　道子　古敷谷美緒　斉藤　悦子　田中　友美　内田　幸夫　大貫　晴子　木谷　祥子　鈴木　昌代　廣瀬　裕子　松澤麻衣子
(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)(新任)

## 支部事務局からのお知らせ

【支部事務局への連絡についてお願い】
支部事務局へのご連絡は、次の電話番号とメールアドレスをご利用ください。

■連絡先
＊支部電話
070－2902－2315
留守電にて対応しております。お名前、会員番号、ご用件をお残しください。
＊支部メールアドレス
kanagawa_domonkai@omotesenke.jp

■郵便物送付先
〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町1-8-5
エスフォレスト横浜203

【青年部会員について】
令和八年四月一日より新たな「表千家青年部制度」が導入されました。
詳細は『同門』一月号をご確認、または、神奈川県青年部(kteaomote@gmail.com)までお問い合わせください。

## あとがき

支部茶会では、予定を上回る多くの会員の皆様にご参席いただきました。猶有斎宗匠より御拝領の軸を披露し、偲び席では故人を偲ぶ心あたたまる一席となりました。(編集)